

【ポスター発表】

福祉専門職における職務満足感と日常生活スキルの関係に関する研究**—職務満足感を高めるための専門職養成教育の検討—**

○ 関西福祉科学大学 家高 将明 (7811)

橋本 有理子 (関西福祉科学大学・4381)、津田 耕一 (関西福祉科学大学・2231)

キーワード：職務満足感、日常生活スキル、自尊心

1. 研究目的

田尾(2001)が、バーンアウトを対人援助職における職業病として位置づけているように、支援過程において利用者に対する気遣いや配慮などが求められる福祉専門職はストレスフルな職業であると言われている。そして福祉専門職が抱えるこのような性質は、仕事へのモチベーションの低下、欠勤、さらには離職へとつながることが危惧されるため、施設運営の側面から捉えるとサービスの質を担保するうえで重要な問題となる。

近年においては、人的資源の効果的及び効率的利用を図る観点から、それぞれの組織におけるスタッフの職務満足感に着目することの必要性が指摘され、福祉専門職における職務満足感に着目した研究が行われている。そしてこれらの先行研究によって、職場内における人間関係や仕事の裁量などが職務満足感に影響を及ぼすことが明らかにされてきている。

しかしながら職務満足感とは、職場環境などの外的要因によって影響を受けるだけでなく、日常生活の中で培われてきた対人関係能力などの内的要因によっても影響を受けるはずである。またこの内的要因が職務満足感に寄与するならば、それら内的要因の獲得はそれぞれが営む人生経験に委ねるだけでなく、専門職養成教育においても焦点を当て、それを高めていくことが求められるであろう。

そこで本研究は、福祉専門職における日常生活スキルに着目し、これと職務満足感との関係について検討する。そしてさらに、そこで得られた知見をもとに、専門職養成教育における教育方法について考察を行う。

2. 研究の視点および方法

本研究は、大阪府内におけるA大学社会福祉学科の卒業生及び同大学大学院修了生のうち、福祉・医療関連施設等で就業している377名を対象とした。調査期間は2012年11月～2013年1月で行った。調査方法は、自記式による郵送調査を実施した。

調査内容は、福祉専門職における職務満足感及び日常生活スキルについて、以下の尺度を用いて測定した。福祉専門職における職務満足感は「全体的職務満足感」のみに着目し、「あなたは現在の仕事に満足していますか」という設問を設定し、「非常に満足している：5点」から「全く満足していない：1点」の5件法で回答を求めた。ライフスキルについ

ては、島本等（2006）が開発した日常生活スキル尺度を用いて測定した。

3. 倫理的配慮

卒業生及び修了生における名簿の利用については、A大学における同窓会社会福祉学科部会において承認を得た。また本研究は、研究目的、意義、方法、個人情報 の徹底管理の約束、データを研究目的以外で使用しない旨を書面にて説明し、同意を得たうえで実施した。なお、本研究は関西福祉科学大学倫理審査委員会の承認を得た。

4. 研究結果

福祉専門職における職務満足感と日常生活スキルにおける関係を捉えるために、職務満足感を従属変数とし、日常生活スキル尺度の下位尺度である「親和性」、「リーダーシップ」、「計画性」、「感受性」、「情報要約力」、「自尊心」、「前向きな思考」、「対人マナー」を独立変数とする重回帰分析を性別ごとに行った。その結果、男女ともに「自尊心」（女性： $\beta = .387, P < .01$, 男性： $\beta = .445, P < .05$ ）のみが職務満足感に正の影響を及ぼす可能性が示された。

5. 考察

重回帰分析の結果、職務満足感と自尊心との間に有意な関連が認められた。そしてこの結果は、先行研究の結果と一致する（東條ほか 1985）。自尊心を取り扱った先行研究においては、自尊心を適応の指標として位置づける見方もあり、自尊心が高い者は動機づけが高いことや逆境に強いことなどが指摘されている。よって自尊心が高まることで職務満足感が高まることを示した本研究の結果は、妥当なものであると考える。

またこれらの先行研究において、自尊心に影響を及ぼすものとして成功体験の有無や他者との人間関係などが挙げられている。よって専門職養成教育は、専門的な知識や技術の習得に向けた教育だけに終始するのではなく、学生の自尊心を育むために、一人ひとりの習熟度に合わせた教育を行い適度な成功感を味わうことのできる学習環境をつくることや、適切な人間関係が形成できるよう支援していくことが求められると考える。

引用文献

島本好平ほか「大学生における日常生活スキル尺度の開発」教育心理学研究 2006年,pp211-221

田尾雅夫『ヒューマン・サービスの経営 一超高齢社会を生き抜くために一』白桃書房 2001年

東條光雅ほか「次元別仕事満足度の要因分析」老年社会学 No22,1985年,pp3-14

※本研究は、平成24年度関西福祉科学大学共同研究（特定公募）の助成により実施している。